

第2回 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会 書面決議における説明資料

■協議事項

地域公共交通確保維持改善事業（陸上交通における地域内フィーダー系統） に関する事業評価について

【資料の説明前】

本事業は、国の支援を受けながら、地域公共交通の確保・維持を図るとともに、地域公共交通の改善に向けた取組みであり、本年度に取り組んだ事業が、次年度以降により効果的・効率的に行うことができるよう振り返り評価させていただくものであります。

事業評価の流れは、あらかじめ設定した目標と目標を達成するために取り組んだ事業に対して、一次評価として本協議会が自ら評価を行い、その後、二次評価として中部運輸局に設置された第三者評価委員会において検証やアドバイスを受け、今後の取組みに反映させていきます。

補助対象となる運行系統は、恵那市自主運行バスの上矢作線となりますが、地域全体の交通網を踏まえた中で、補助対象事業の評価と見直しを行うことが必要としております。

【資料説明】

2 ページ 前回の二次評価の結果から、その対応内容と今後の対応方針を記してあります。

3 ページ 本協議会が目指す地域公共交通の姿として、本協議会が定めた第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画の基本的な方針や3目標を記してあります。補助対象となる上矢作線は、上矢作町と明知鉄道の岩村駅を結ぶ路線であります。

4 ページ 本年度取り組んだ内容を記してあります。①と②については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、公共交通機関の利用者が減少する中での取組みであります。③公共交通に対する意識醸造する取組みとして、中学生30人が作成してくれた明知鉄道に関する新聞記事を、毎月張り替えております。④ではITを活用しバス路線の経路検索が誰でも利用できるようにし、利便性の向上を図っています。また、恵那駅にデジタルサイネージによる運行情報の案内を設置する予定です。⑤では本協議会の下部組織において、恵那市の交通体系の見直しを行いました。今後はこの見直しを基に、各地域のニーズを的確に把握し、地域の状況にあったサービス提供を行っていくこととしております。

5～7 ページ 計画の達成状況の評価指標とその結果を示したものであります。5 ページでは、計画に定めた目標の達成状況を確認するため、6つのアウトプット指標と3つのアウトカム指標により達成状況を確認しております。6 ページから7 ページの上段までは、各地域のバス路線の利用状況、収支率、満足度を示しており、評価基準に基づき自己評価を行っております。全体評価としてB2としております。7 ページの中段以降では、考察と今後の

方針を示しております。考察では、新型コロナウイルスの影響により、利用者の減少となったことを示しておりますが、利用者ニーズを的確に把握した時刻と路線の見直しを行った結果、利用者が増加した路線もあります。今後の方針としては、コロナ禍において、利用者が減少する中、持続可能なサービス提供ができる検討が必要としております。

8 ページ 自己評価から得られた課題と対応方針を記してあります。課題として、新型コロナウイルスにより公共交通が崩壊しないようにするため、改善のスピードや質を高めていき、持続可能な公共交通ネットワークとしていくことが必要であります。今後は、この課題を踏まえて、交通計画を改正することと、モビリティマネジメントを推進していくこととしております。

9～10 ページ 補助対象となる上矢作線における改善事業と事業評価を記してあります。対象路線は7路線あり、前回の事業評価を受けて、地域の移動支援検討会による検討やバス乗車体験を行ったり、高齢者のフレイル予防のための外出支援等を行いました。実施事業は「計画どおり適切に実施された」と評価することができ、定量目標としては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、利用者の外出数が減ったとみております。しかし、そのような状況においても、上矢作地区では移動支援検討会を中心に買い物ツアーや利用促進に向けた検討会が進められているので、引き続き地域との連携を強化したサービス提供ができるよう取り組んでいきます。

以上のおりで、本年度、本協議会が取り組んでいる全体事業に対する自己評価と補助対象となる事業に対する自己評価の説明とさせていただきます。